

2024 年度 先進地視察報告書

日本共産党豊岡市会議員団

1, 調査先

隠岐の島 海士町

2, 調査期間

2024年8月19日～21日

3, 調査参加議員

村岡峰男 上田伴子 須山泰一

4, 調査目的

人口減少対策

隠岐空港には「牛突き横綱」→



5, 調査内容

① 隠岐諸島 海士町

日本海の島根半島の沖合に大小180の無人島と4つの有人島があり、一番大きな島が隠岐の島。隠岐諸島の中の一つ、中ノ島を「海士町」といいます。海の侍と書いて海士町「あまちょう」です。豊富な湧き水に恵まれ、自給自足のできる半農半漁の島。

タクシー運転手さんの話では「隠岐の島で30度を超えるのは珍しい」とのこと。とても暑かったです。「島には猪も鹿もないから、ウサギがのびのびしている」そうです。

② 人口減少

昭和 25 年には 7 0 0 0 人いた人口が平成 27 年には約 2 3 0 0 人へ。高校卒業後は島外へ流出、20～30 代の活力人口が低く、生まれる子どもは年に 10 人前後。小泉内閣の「三位一体改革」による「地財ショック」で地方交付税の大幅削減、公共事業で膨らんだ地方債 1 0 1 億円を、「どう返すか」というところから改革へ進みだします。「財政再建団体」への転落の危機が予測され、平成 16 年に「海士町自立促進プラン」を策定。町長から給料カットを行い、管理職、職員も続きました。税収 2 億円に匹敵する人件費削減を行い、これが「守り」の行財政改革。一方で「攻め」として地域資源を活かし、第一次産業の再生で仕事づくりを行います。「さざえカレー」「隠岐海士のいわがき」「隠岐牛」などの島ブランドを売り出します。また、I ターンのための住宅整備、給与カット分を財源に「子育て支援条例」を制定し、乳幼児医療適用範囲を中学卒業まで拡大等。産業施策と定住施策の連鎖で島に若者が増えてきます。平成 16 年～令和 3 年の 18 年間で移住が 8 7 3 人（6 2 2 世帯）。

③ 隠岐島前高校

海士町にある隠岐島前高校は少子化の影響を受け、入学者数が 77 人（H 9 年）から 28 人（H20 年）に激減し、統廃合の危機に。高校が無くなると、島の子どもは 15 歳で島外に出ざるを得なくなります。「ピンチは変革と飛躍へのチャンス」という信念で、全国からも生徒が集まる「島留学」制度を新設するなど魅力的な高校づくりを推進中。世界的課題や地域に実在する課題に触れる学習を進め、「勉強ができる子は本土に行く。できない子が島に残る」というイメージがあったが、今では「できる子が島へ来る」という状況に変わりました。

④ 副業のすすめ

条例を定めて半官半 X の促進。週の半分を公務員、半分を第一産業に従事など。公務拡大型と公務兼業型の 2 種類があります。民間でも副業が行われています。夏だけの仕事、冬だけの仕事に組合を作って職員を派遣、国が 1 / 2 を支援します。

⑤ 大人の島留学

2020年からは「大人の島留学」を開始し、大学生が休学して島に訪れたり、社会人も来ています。女性が多いのが特徴の一つ。「移住・定住を言うのは重たい」ので言わないそうです。都市から地方へ「還流」する人の流れを生む仕掛けということです。



海士町の取り組みについて、役場の担当職員、島前ふるさと魅力化財団の担当者より説明を受け、「大人の島留学生」との対話を通して学んだ



6. 所感

NHKの「新プロジェクトX」でも紹介された海士町の取り組み。生徒を全国募集し高校を統廃合から守り、「大人の島留学」等、若者を呼ぶ取り組みが成功している。人口は下がり止まり、増加も展望されている。海士町では若い人に移住・定住を求めず、町に滞在する人口を増やそうという考え方。それが、島に来るハードルを低くしている。

20年前に、町の財政危機に対して、町長・職員の給与カットから住民全体が町を守るために団結した。こうした町を守る取り組みは大変なことだと思うが、一方でやはり国政の問題を感じた。1990年代に、国は無駄なダム等の大型

公共事業を 13 年間で 6 5 0 兆円も注ぎ込んだ。現在では軍事費の倍化に向けて来年度概算要求で軍事費が 8 兆 5 千億円。一握りの大企業の内部留保が 5 3 9 兆円 (24 年 3 月末) に膨張。そのしわ寄せで地方が大変な苦勞をしている。おおもとは国の政治の問題があり、ここを見逃してはいけない。

(須山泰一)

